

令和 7 年 7 月 1 6 日

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業振興センター

「稲作・大豆情報（第 6 号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第 6 号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

1 気象概況

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R7 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R7 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R7 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R7 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R7 (hr)	平年比 (%)
7月	1	25.4	29.5	4.1	29.2	34.3	5.1	22.4	25.6	3.2	90.3	0.0	0.0	16.3	55.7	341.7
	2	26.1	29.3	3.2	30.1	35.7	5.6	23.0	25.5	2.5	83.2	11.5	13.8	20.3	47.5	234.0
	3	26.7	27.7	1.0	30.9	32.7	1.8	23.5	24.7	1.2	61.9	10.5	17.0	24.2	32.5	134.3
	4	27.3		-27.3	31.8		-31.8	23.9		-23.9	43.1		0.0	28.0		0.0
	5	27.7		-27.7	32.5		-32.5	24.2		-24.2	36.2		0.0	31.4		0.0
	6	28.1		-28.1	33.0		-33.0	24.5		-24.5	39.2		0.0	41.0		0.0

○ 7 月 3 半旬の平均気温は、平年に比べて 1℃高く推移した。降水量は 10.5mm と少なく、日照時間は平年比 134%と多くなった。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：7 月 1 5 日）

項目 品種(設置場所)	年 次	草 丈 cm	茎数 本/㎡	主 稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
さがびより 6/21 移植 武雄市橘町 ※2	本年値	40.2	325	8.2	41.1	・草丈は平年並。 茎数は平年より多い。 ・主稈出葉数は平年並。 ・葉色はやや淡い。。
	前年値	37.3	242	7.7	41.8	
	平年値 ※2	40.1	265	8.2	41.8	
	平年比	100	134	0	-0.7	

※1 さがびよりの平年値は H21～R6 の平均値

※2 本年移植日 6 月 21 日 平年移植日 6 月 21 日

栽植密度 14.8 株/㎡

項目 品種(設置場所)	年 次	草 丈 cm	茎数 本/㎡	主 稈 出葉数 L	概 要
ひなたまる 6/25 移植 白石町	本年値	32.5	226	8.4	

栽植密度 18.6 株/㎡

本年産水稻の生育状況(7月16日)

移植日	項目 品種	年次	草 丈 cm	茎 数 本／m ²	葉 齢 L	葉色 SPAD	概 況 (平年または前年との比較)
6月18日	夢しずく	本 年	50.4	331	9.2	41.0	【気象】 7月9日～15日まで ◆平均気温…2.4℃高い ◆日照時間…長い (平年比 140%) ◆降水量…少ない (平年比 12%) 【生育】 ◆草丈 「ヒノヒカリ」はやや高く、その他の品種は高い。 ◆茎数 「夢しずく」でやや多く、その他の品種は多い。 ◆葉齢 「夢しずく」、「ひなたまる」、「ヒヨクモチ」はやや進んでいる、「ヒノヒカリ」、「さがびより」は進んでいる。 ◆葉色(SPAD 値) 「さがびより」、「ヒヨクモチ」はやや濃い、「夢しずく」、「ヒノヒカリ」、「ひなたまる」は濃い。
		平 年	45.0	318	9.0	31.1	
		平年比(差)	112	104	(+0.2)	(+9.9)	
	ヒノヒカリ	本 年	40.4	464	9.7	42.6	
		平 年	38.9	431	9.1	40.3	
		平年比(差)	104	108	(+0.6)	(+2.3)	
ひなたまる	本 年	50.3	451	10.0	45.9		
	前 年	44.9	273	9.6	42.8		
	前年比(差)	112	165	(+0.4)	(+3.1)		
6月20日	さがびより	本 年	41.7	420	9.4	41.7	
		平 年	38.8	315	8.9	40.9	
		平年比(差)	107	133	(+0.5)	(+0.8)	
	ヒヨクモチ	本 年	38.3	742	9.8	43.2	
		平 年	35.9	560	9.5	41.6	
		平年比(差)	107	133	(+0.3)	(+1.6)	
留意点	○必要な茎数が確保された品種は、中干しを実施する。「夢しずく」は7月下旬頃に幼穂形成期となるため、それまでに中干しを終了する。 ○生育量が例年に至っていない、茎数が少ない圃場は浅水・間断灌水管理により、できるだけ茎数の確保に努める。その際の中干しは時期を遅らせ、やや軽めにとどめる。 ○トビイロウンカ及びコブノメイガの発生に注意し、適期防除に備える。						

注1)「夢しずく」、「ひなたまる」、「ヒノヒカリ」は、6月18日移植の稚苗(播種期 5/26, 播種量 湿粳 180g/箱)

「さがびより」、「ヒヨクモチ」は、6月20日移植の稚苗(播種期 5/27 播種量 湿粳 180g/箱)

2)栽植密度: 「夢しずく」は、条間 30 cm × 株間 17 cm, 19.6 株/m²(65 株/坪)「ひなたまる」は、条間 30 cm × 株間 18 cm, 18.5 株/m²(60 株/坪)「さがびより」は、条間 30 cm × 株間 20 cm, 16.7 株/m²(55 株/坪)「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」は、条間 30 cm × 株間 15 cm, 22.2 株/m²(73 株/坪)

3. 管内の生育状況（7月15日時点）

1) セタコシヒカリ：現在、乳熟期頃となっている。

本年は早いところで6月24日に出穂し、出穂盛期は6月26日～28日となった。

なお、情報田の出穂期は6月26日となり、平年より2日早い。

積算気温から予測される収穫適期は7月24日～8月1日頃である。

*積算気温は、あくまで目安なので、圃場での熟れぐあいを確認して収穫時期を決定してください。

2) 普通期水稻：現在、分けつ期である。

全般に茎数は多いが、ガスの発生が多い圃場では茎数が抑えられた圃場も散見される。

3) その他特記事項：高温の影響で、除草剤の葉害がみられる圃場が散見される。

4. 今後の管理

1) セタコシヒカリ

(1) 水管理

- ・「コシヒカリ」は、乳熟期を迎えている。積算温度による刈取り積算目安表は別紙参照。
- ・水管理は、根への酸素供給を図るためにも常時湛水するのではなく間断灌水（潤土管理）を行う。玄米の品質低下を避けるため、土壌表面が白乾しないように、好天が続く場合は必ず走り水を行う。早期の落水は粒の充実不足、品質低下につながるため、収穫7日前ごろまでは間断灌水を続ける。晴天が続く、圃場の乾燥が進む場合は、収穫前7日以内でも水を通し、白乾させないようにする。

2) 普通期水稻

(1) 水管理

- ・麦わらすき込み及び麦収穫前に打ち込みを行った圃場でガスの発生が著しい場合は、「ガス抜き」のために半日～1日程度の落水を行う。特に、足を踏み入れずに自然に気泡が出るようであれば直ちに落水する。
- ・早植水稻等では、茎数が1株あたり20本程確保できた圃場から中干しを行う。

《表1 ガス（湧き）発生程度及び対策》

湧きの程度	様相とガス程度水稻への影響	水稻への影響	ガス対策（7月上旬以降）
稀	足を踏み込んでも気泡なし	なし	必要なし
少	足を踏み込むとわずかに気泡が見られる	なし	必要なし
中	足を踏み込むと気泡の発生が多い	根の活力低下	落水後に用水更新
多	足を踏み込むと盛んに気泡を発生	根張り不良	落水後に用水更新を繰り返す
甚	晴天時自然に気泡発生する（ぱちぱちと音が聞こえる。）水田歩くと著しく気泡発生。	根伸長阻害、黄化	中耕と用水更新を繰り返し回復後には、間断灌水（本格的夜干）



手を田んぼに入ると、気泡（ガス）が激しく発生する

⇒ガスの障害により生育抑制や古い葉の葉先に褐色の斑点が発生する。

・ 移植後、気温は高く推移したことで雑草発生が早く、除草剤の効果が十分発揮できていない圃場も確認されている。特に「ホタルイ」「ヒユ」の発生を確認する。その場合、中後期除草剤の対応を行う。（剤によっては収穫前日数に留意して使用する）

・ 中干しの目安は、茎数が株あたり20本程度確保された時期。

（参考）中干し作業の効果と時期

（1）中干しの効果

- 1) 無効分けつの発生防止 → 1 茎の充実、茎を太く揃える
- 2) 下位節間の伸長防止 → 稈長を長くしない、倒伏防止
- 3) 窒素の制限 → 過剰繁茂防止、草型を整える
- 4) 有害物質の除去 → 根の活力低下防止
- 5) 土壌に酸素供給 → 根の健全化、根の量の増加
- 6) 株支持力の増加 → 倒伏防止
- 7) 圃場管理が容易 → 田圃に入っても歩いてもきつくない
コンバインが入れるよう地耐力高める

（2）中干しの実施時期の目安

→ 総葉数の7割～8割の葉が出た時の間、10葉期頃、田植後35日を中心に行う。
有効分けつ決定期（株当たり小さい分けつまで20本）
～穂首分化期（穂の基が茎の中で出来る時）である。

また、開始時期の目安は、移植時期によって異なるが、有効茎（1株あたり20本程度の分けつ）が確保でき、株が開張しておおむね草丈が35～50cmを目途に実施する。

（3）中干しの期間と程度（強弱）

中干し期間は5～7日だが、天候や土壌の種類、漏水の程度などによって変わってくる。圃場の硬さの目安は軽く足跡が付く程度で、小さなヒビが入るくらい。つまり「歩いて足跡が付くが抵抗なく歩ける硬さ」が理想である。しかし生育量や葉色によっても加減が必要である。指先が縦にはいるようなヒビ（強い中干し）は、強い断根を伴い稲にとってダメージが大きくなる。白乾するような強い中干しは行わない

(2) 病害虫防除

① いもち病

【普通期水稻】

- ・ 圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」や「ごま葉枯病」の温床になるため、すみやかに除去する。
- ・ 7月9日～13日にかけて、葉いもちの準好適条件が出現しているため、圃場での発生に注意する。

BLASTAM情報第4号(葉いもち感染好適条件の出現状況)(2025年7月16日更新)

月	日	佐賀					福岡			長崎	
		唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	前原	太宰府	久留米	松浦	佐世保
6月	1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3日	1	—	—	4	4	1	●	●	4	—
	4日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	8日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4
	9日	4	●	4	●	●	—	—	●	●	●
	10日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	11日	4	—	—	—	—	●	—	—	●	—
	12日	●	●	●	●	●	4	●	●	4	●
	13日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●
	14日	—	—	3	—	—	3	—	—	—	—
	15日	●	—	—	—	—	—	●	—	—	—
	16日	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—
	17日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	18日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	19日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	20日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	21日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	22日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	23日	—	2	2	—	—	2	2	—	2	—
	24日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	25日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	26日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	27日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	28日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	29日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	30日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7月	1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	8日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	9日	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—
	10日	—	3	—	2	—	—	—	3	3	—
	11日	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—
	12日	3	—	—	—	—	—	3	—	—	3
	13日	—	3	—	—	—	3	—	3	3	—
	14日	—	—	—	—	—	—	3	3	—	—
	15日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	16日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	17日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	18日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

1：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満）

2：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上）

3：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温が15～25℃の範囲外）

4：準好適条件（湿潤時間が湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い）

●：好適条件（湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した）

—：好適条件の出現なし

？：判定不能

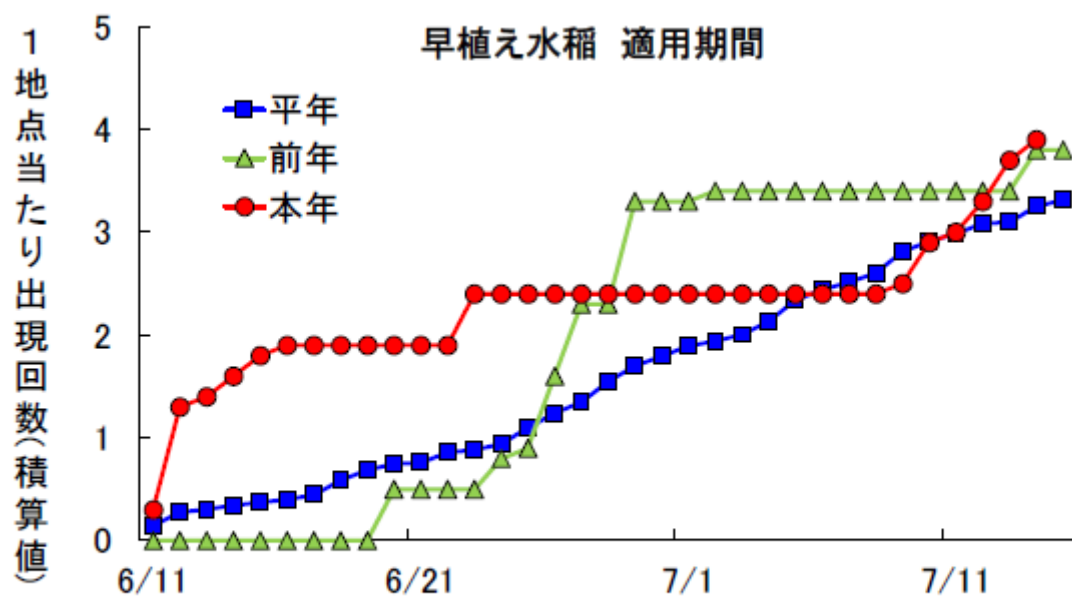


図1 BLASTAMによる準感染・感染好適条件の出現回数
(5月22日移植の場合: 適用期間6月11日～7月15日)

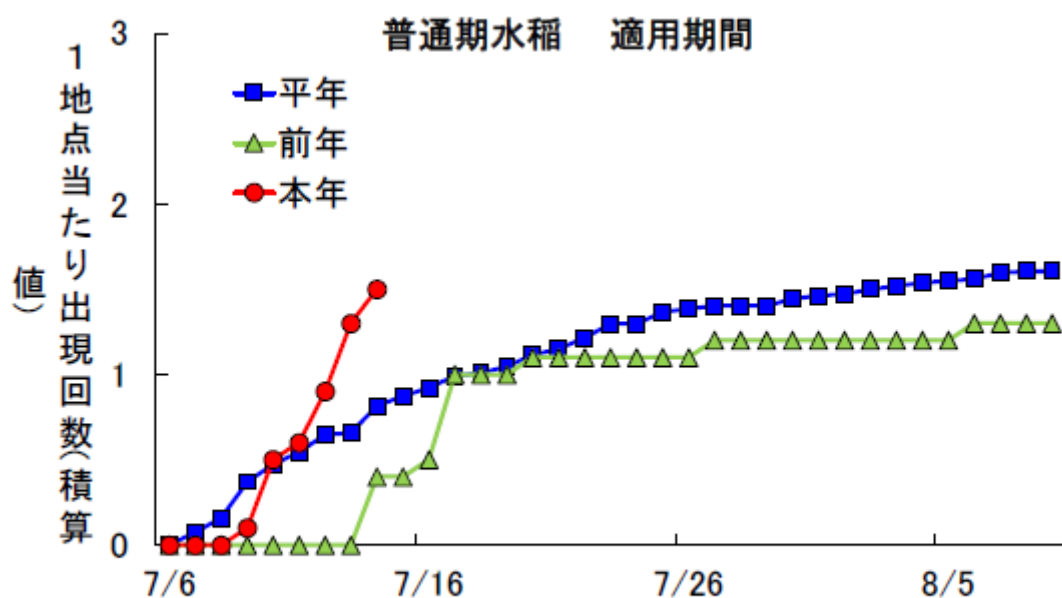


図2 BLASTAMによる準感染・感染好適条件の出現回数
(6月16日移植の場合: 適用期間7月6日～8月9日)

②ウンカ類、コブノメイガ

- ・セジロウンカとトビイロウンカは6月16日～23日に飛来が確認されている。
- ・コブノメイガは6月16日頃から飛来が確認されている。飛来量は下表のとおり。
- ・発生予測は随時更新されるため、最新情報は佐賀県農業技術防除センターのホームページを参照。
- ・今後の飛来状況や圃場での発生状況（移植時期や品種、箱施用剤の種類、施用の有無、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量や増殖率が異なるため、圃場での発生状況に注意する。

≪ 海外飛来性害虫情報 ≫

表1 イネウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況(2025年)

月 日		トビイロウンカ				セジロウンカ				コブノメイガ					
		佐賀県		長崎県		佐賀県		長崎県		佐賀県					長崎県
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	佐賀市	神埼市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市
		ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップ	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップ	フェロモン トラップ	粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	フェロモン トラップ	フェロモン トラップ	粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	フェロモン トラップ
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0		0			0	0
	3日	0	0	0	0	0	0	0	1		0			0	0
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0		0			0	0
	5日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0		0			0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0		0			0	0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0		0			0	0
	9日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0			0	0
	10日	0	0	0	0	0	2	4	0		0			0	1
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0		0			0	0
	12日	0	0	0	0	0	1	1	0		0			0	0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0
	14日	0	0	0	0	1	0	1	0		0			0	3
	15日	0	0	0	0	0	0	0	0		0			0	0
	16日	0	2	0	0	3	9	0	0		0	0		1	7
	17日	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0		1	1
	18日	0	0	0	0	3	4	0	4		0	0		0	0
	19日	0	0	0	0	0	2	0	0		1	0	0	1	6
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0		1	0	0	1	0
	21日	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0
	22日	0	1	0	0	0	26	0	1		0	0	0	0	0
	23日	0	2	0	0	2	126	2	0		0	0	0	0	0
	24日	0	0		0	2	139		0		0	0	0	0	2
	25日	0	0		0	2	12		0	0	0	2	0	1	1
	26日	0	0		0	1	8		0		0	2	0	1	0
	27日	0	0			0	7				0	2	0	1	
	28日	0	0			0	1				0	2	0	1	
	29日	0				0									
	30日	0				0									

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査(回収日で集計)。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。

6月29～30日の嬉野ライトトラップは、装置の不具合により欠測。

注2)コブノメイガ:神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。

※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。

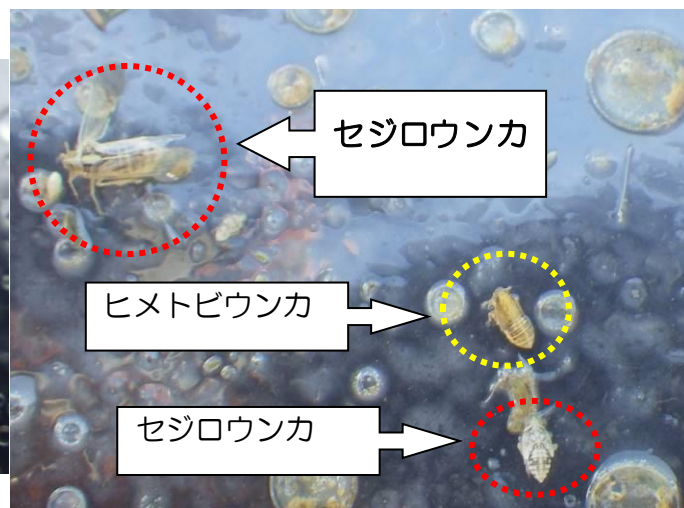
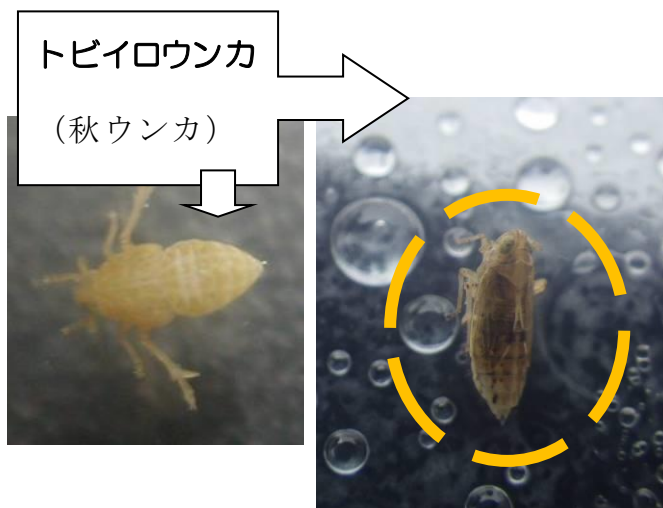


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測 (第1版、2025年7月2日作成)



図2 コブノメイガ各世代の発生予測 (第1版、2025年7月2日作成)

令和7年産「セタコシヒカリ」収穫適期予想表（アメダス観測地、白石）

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会作物部会
杵島農業改良振興センター

令和7年7月15日現在

月	日	平均気温		出穂期				
		平年	R7	6/24	6/26	6/28	6/30	7/2
6	24	24.0	25.0	出穂期				
	25	24.2	25.9	26				
	26	24.3	25.2	51	出穂期			
	27	24.4	26.7	78	27			
	28	24.6	28.0	106	55	出穂期		
	29	24.8	28.7	135	83	29		
7	30	24.9	28.8	163	112	58	出穂期	
	1	25.1	29.6	193	142	87	30	
	2	25.2	29.4	222	171	117	59	出穂期
	3	25.4	29.7	252	201	146	89	30
	4	26.5	29.5	282	230	176	118	59
	5	26.7	29.1	311	260	205	147	88
	6	26.8	29.3	340	289	234	177	118
	7	26.9	29.2	369	318	263	206	147
	8	27.1	29.5	399	348	293	235	176
	9	27.2	29.1	428	377	322	264	205
	10	27.3	29.4	457	406	351	294	235
	11	27.5	28.9	486	435	380	323	264
	12	27.6	28.4	514	463	409	351	292
	13	27.7	28.5	543	492	437	380	321
	14	27.8	26.3	569	518	463	406	347
	15	27.9		597	546	491	434	375
	16	28.1		625	574	519	462	403
	17	28.2		653	602	548	490	431
	18	28.3		682	631	576	518	459
	19	28.4		710	659	604	547	488
	20	28.5		739	688	633	575	516
	21	28.6		767	716	661	604	545
	22	28.7		796	745	690	633	574
	23	28.7		825	774	719	661	602
	24	28.8		853	802	748	690	631
	25	28.9		882	831	777	719	660
	26	28.9		911	860	805	748	689
	27	29.0		940	889	834	777	718
	28	29.1		969	918	864	806	747
	29	29.1		998	947	893	835	776
	30	29.1		1028	976	922	864	805
	31	29.2		1057	1006	951	893	834
8	1	29.2		1086	1035	980	923	864
	2	29.2		1115	1064	1009	952	893
	3	29.3		1144	1093	1039	981	922
	4	29.3		1174	1123	1068	1010	951
	5	29.3				1097	1040	981
	6	29.3				1127	1069	1010
	7	29.3					1098	1039
	8	29.2						1069
	9	29.2						
	10	29.2						

4月6日移植→出穂期6月26日頃

高温予想のため、7月4日以降平年+1度として試算

◎ コシヒカリ収穫適期の目安

● 積算気温による目安

最低 850℃

～

最高 930℃

< 収穫のポイント >

○ 積算表はあくまで目安です。

○ 収穫は、圃場での熟れ具合を確認したうえで、作業日を決定してください。

○ 早期落水すると充実不足による「ヤセ米」や、「屑米」、「死米」が発生し、品質低下を招くため、収穫1週間前までは必ず間断灌水を実施し、根の活力維持に努めてください。

○ 麦などの異種穀粒や異物が混入しないよう、収穫作業前には、必ずコンバインや乾燥機の清掃点検を実施してください。

○ 「セタコシヒカリ」の収穫は、高温条件での作業となり、ヤケ米発生が懸念されるため、一次堆積時間（トラックやコンテナでの堆積時間）はなるべく長くならないように作業を進め、収穫された稲は速やかに通風・乾燥してください。



< 収穫適期の目安 >

・籾水分27～28%（穂軸の先端（穂先）から1～2cmが枯れ、穂元の青籾が5～7粒残っている状態で、籾をツメで押してもつぶれなくなった時。籾水分が25%未満（積算気温で1,000度以上）になると刈遅れによる品質低下が懸念されます）

・収穫時期の気温が高い「セタコシヒカリ」では、普通期水稲よりも籾水分の低下が早く、刈遅れによる品質低下が懸念されるため、収穫前は圃場での稲の籾水分の推移を注視しながら、収穫適期を判断してください。

・早刈りすると「青未熟粒」や「死米」の発生による品質低下だけでなく収量も低下し、また、遅刈りすると「胴割米」や「茶米」等の発生による品質低下を招きます。高い品質と収量を確保するため、適期収穫に努めてください。

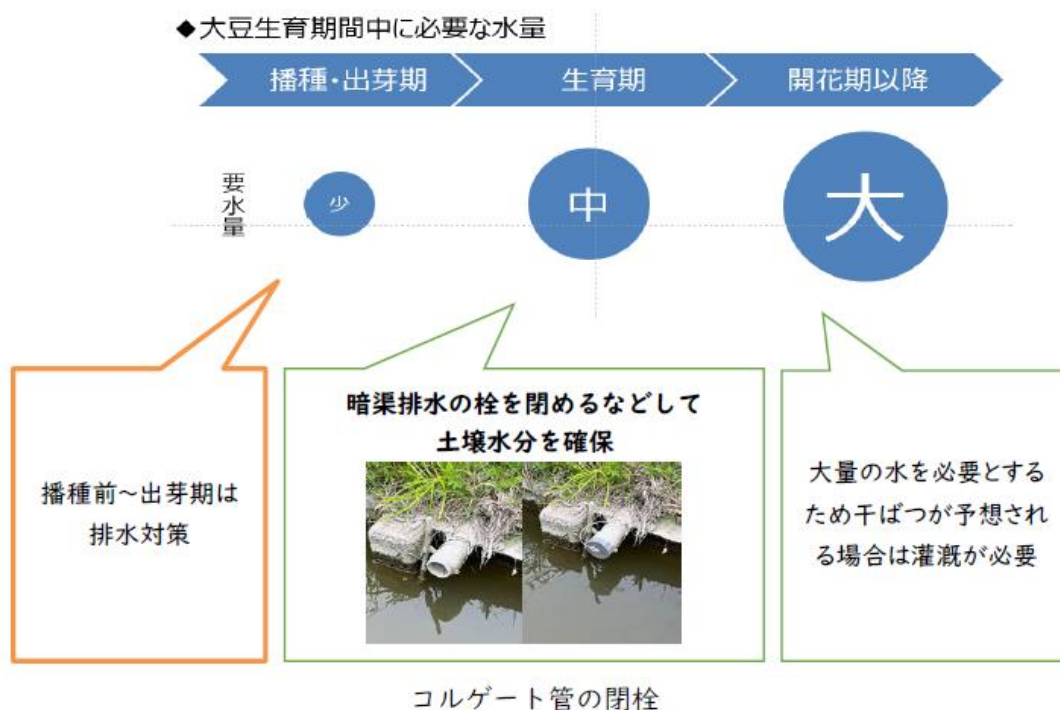
5. 大豆の管理について

- ・ 本年の梅雨明け(6月27日頃)は、平年(7月19日頃)より22日程度早く、平年に比べ梅雨期間が大幅に短くなった。
- ・ 平坦部では7月上中旬を播種適期としているので、苗立ちが確保できる天気予報であればすみやかに播種を行う。なお播種に当たって留意点は以下のとおりである。

1) 乾燥時の対策

(1) 播種前対策

晴天が続き高温乾燥が予測される場合、コルゲート管の閉栓が土壤水分確保に有効である。



(2) 種子消毒

- ・ 乾燥で出芽までの時間がかかることによる土中での種子の腐敗リスクを軽減するため、種子消毒（クルーザーMAX、キヒゲンR 2フロアブル）を行い、出芽率の向上に努める。

(3) 播種対策

- ・ 耕起後、直ちに播種を行う。
(集落営農等で可能であれば2台トラクタで夕方に耕起、播種を同時に行う。)
- ※耕起から播種までの間隔があくと土壌が過乾燥となり発芽率の低下を起こす。可能な限り、耕起と播種の間隔を減らし、土壌乾燥を防ぎながら播種する。
- ・ 播種深度は、播種後に晴天が続く場合は5cm前後の深めにし、鎮圧を行う。

○播種期別、栽植密度の目安は下記表のとおりである。

(播種期別、播種量の目安)

播種期 (月/日)	栽植本数 (m ² 当たり)	栽植本数 条間×株間×1株本数	播種量目安 (kg/10a)
7/1～7/5	10本	75cm×25cm×2本	3.2kg
7/6～7/15	13本	75cm×20cm×2本	4.0kg
7/16～7/25	18本	75cm×15cm×2本	5.3kg

(4) 播種後対策（大豆を播種したもの、まだ出芽しない場合）

①播種後、7日程度経過した圃場では、土中の種子を掘り返し、種子の状態を確認する。

降雨が期待できない場合、うね間灌水（注1）を検討する。

注1：うね間灌水は、夕方、日が陰ったあとに圃場に入水し、圃場に水が行き渡ったらすぐに落水し、少なくとも翌朝には完全に落水させる。日中の灌水は、高温・多湿により種子が腐敗し易い。

2) 今後の気象でまとまった降雨がある状況になった場合の播種対策

播種後、まとまった降雨の恐れがある場合は、覆土は2cm程度に浅くし、播種後の鎮圧は行わない。

また降雨後種子が水没しないよう、平播きにせず畦立てを行い、畦溝が排水路につながるよう明渠（作溝）を施工する。

3) 雑草防除

(1) 播種前対策

「ラウンドアップ」「プリグロックス」など茎葉処理剤の散布において、風の強い日の散布は周辺水稻へ飛散する危険が大きいため必ず避ける。（場合によっては枯死まで至る）

(2) 播種後対策

播種直後に土壌処理剤を散布し、雑草防除を行う。特に、近年問題となっているホオズキの発生が多い圃場では、「ラクサー乳剤」「フルミオWGD」が効果的である。なお、播種直後の散布でも隣接圃場の水稻ヘドリフト防止のため風速と風向きに注意し、風が強い日には散布しない。

(3) 難防除雑草への対応

アサガオ類やホオズキ類の難防除雑草の発生が多い地域では、圃場内侵入防止に努め、見つけ次第手で抜き取る。

圃場内に発生している場合、多発すると大豆の作付け自体が困難になるため発生が少ないうちに、雑草の開花や結実前までの茎葉処理除草剤のスポット処理や手取りの防除に努める。

注3) 既にアサガオ類が多発している圃場では、トレファノサイド乳剤の全面土壌混和处理（播種前に200～300ml/10a散布→速やかに荒起→播種）で密度を低減できる。

(4) 大豆は初期生育が早く、大豆の茎葉が繁茂することで雑草発生を抑制できるので、雑草の発生が少なければ、早めに中耕培土で防除が可能である。大豆生育期（2～5葉期）に中耕培土を実施する。

(参考) 佐賀気象台予報 (白石町)
(7月16日時点)

白石町の天気

16日13:00発表

今日・明日の天気

3時間天気

1時間天気

2週間天気

日時	天気	気温	降水確率	降水量	
07月16日(水)	 晴のち曇	33℃ 24℃	40%	0mm	+
07月17日(木)	 晴一時雨	33℃ 26℃	50%	0mm	+
07月18日(金)	 雨時々曇	28℃ 26℃	100%	26mm	+
07月19日(土)	 曇	33℃ 25℃	30%	0mm	+
07月20日(日)	 曇時々晴	34℃ 25℃	20%	0mm	+
07月21日(月)	 曇時々晴	35℃ 25℃	40%	0mm	+
07月22日(火)	 晴	35℃ 24℃	10%	0mm	+
07月23日(水)	 晴時々曇	35℃ 25℃	20%	0mm	+
07月24日(木)	 晴	34℃ 25℃	40%	0mm	+
07月25日(金)	 晴時々曇	34℃ 25℃	40%	0mm	+
07月26日(土)	 晴時々曇	35℃ 24℃	20%	0mm	+